

事務事業調書

平成27年度

事業No	766	課	スポーツ課	係	スポーツ振興係	起案者	石川広之
						決裁者	野畑伸
事務事業名	野外センター開放事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 5 スポーツ 1 スポーツ 9 上記施策以外の施策 9 上記施策以外の施策			予算科目(会計)		一般会計		
				予算科目(款・項・目)		50-30-5		
				総合計画以外の計画		スポーツ振興計画		
				関連する総合計画の施策				
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの			
根拠法令	無							
法定受託事務	無							
公約・議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	一部委託	委託先	ボランティア					
実施期間	開始	昭和47年度	経過	43年目	終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が	近代生活に慣れた市民が			~になる	自然の尊さに気付くようになります。		
事務事業の内容	安城市の野外センターは、作手野外センターと茶臼山野外センターの2箇所にあります。 6月から9月まで、小中学校が利用をしない日を一般に開放し、多くに市民の方に利用してもらっています。 す。一泊二日で、ファミリーキャンプも計画しています。							
改善・対策の履歴	利用申し込みの際、利用手順や利用マナーなどの指導をし、利用者同士が快適に過ごせる指導をしました。 平成26年度のファミリーキャンプは作手野外センターで開催しました。 26年度は、期間中の土・日に悪天候が多く、当日のキャンセルが例年より多く見受けられました。							

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	2,112	2,168	2,199	2,123	2,199
財源計	33	89	120	44	120
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	33	120	44	120
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	2,079 (0.33)	2,079 (0.33)	2,079 (0.33)	2,079 (0.33)	2,079 (0.33)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	一般利用者の受付	見込	40.00	50.00	60.00	60.00
			実績	54.00	59.00	66.00	
	指標名 (単位)	受付件数(件)	活動の総事業費 (千円)	1,783	1,828	1,788	
			活動にかかるコスト (千円)	33.02	30.98	27.09	
活動2	活動名 (活動内容)	ファミリーキャンプの開催	見込	12.00	15.00	20.00	15.00
			実績	11.00	23.00	14.00	
	指標名 (単位)	受付件数(件)	活動の総事業費 (千円)	329	340	335	
			活動にかかるコスト (千円)	29.91	14.78	23.93	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移								
指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	野外センター利用者数(人)			目標	800.00	800.00	800.00	800.00
				実績	1,043.00	821.00	660.00	
	目標達成年度		目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	未達成
成果2	ファミリーキャンプの参加者数(人)			目標	40.00	50.00	50.00	0.00
				実績	38.00	76.00	54.00	
	目標達成年度		目標成果指標値	0.00	達成状況	未達成	達成	達成

5 成果1、2以外の成果	
成果	例年、2、3家族ですが小学校で山の学習会を体験する前に、家族で利用する方がいます。また、利用料金が安価なことで、キャンプ場周辺での川遊びや散策が面白いと、次の年にも利用される方もいます。

6 各活動にかかるコストと成果の分析	
内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	受付件数が少しずつ増えてきています。しかし、山の天気は変わりやすく、当日にキャンセルする団体も26年度は目に付きましました。また、利用者の受付は効率よく処理できるように、事務手引きを用意して職員間で説明をしました。
成果	26年度の一般利用期間中は、土・日曜日に天候不良の日が多く、利用者のキャンセルが多く見受けられ、利用者数が減になりました。

7 所属長の改善案	
コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案	
利用が比較的に少ない茶臼山高原野外センターについては、自然の景観、近隣の観光地（山上の芝桜）などさまざまな情報を提供して利用の増大を図ります。あわせて、学校教育課とも連携して、施設の安全管理を徹底します。また、作手野外センターでは、天体観測や昆虫採取など、自然と触れ合う機会を多く取り入れたファミリーキャンプを計画していきます。	

8 方向性	
必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	安城市から近い作手の利用者が多く、遠い茶臼山の利用が少ない状況となっています。両センターとも、利用者数は年度により差がありますが、利用された方から好意的な意見もいただいていることから、ファミリーキャンプや近くの施設の利用案内、PRを積極的に行いながら、施設の活用を行っていきます。